



# びすけっと

226号—2021年10月—

埼玉県立小児医療センター

血液・腫瘍科

親の会 びすけっと

もっとみなさんにつながれるように…

Instagram始めました!

[https://www.instagram.com/biscuit\\_oyanokai/](https://www.instagram.com/biscuit_oyanokai/)



## 🌸がんの子どもを守る会 2021年度年次大会 web 講演会

「小児がん経験者の健康管理」

愛媛県立中央病院小児医療センター長 石田也寸志先生

質問に答えて

- ・ ホームドクターが定期検診で異常を発見することは可能か→基本的に可能と考えられる。生活習慣病など成人になってからの病気は、ホームドクターに適切に対応してもらえる。
- ・ フォローアップ外来を持たない地方病院の体制→全国レベルのネットワーク作り、連携を模索していく。AYA 世代の経済的支援策をお願いしていく。研修会を実施して医師などの人材育成を行う。
- ・ 小児がん連携病院の整備状況→連携の体制が実効性を持つように発展するかは未知数。今後の構築次第で有機的に動けばいい。
- ・ がん検診の受診場所→在住でも治療を受けた施設でもどちらで検診を受けてもかわらない。異常があったとき、治療内容がわかれば精密検査時の参考になる。
- ・ 勤務先の健康診断→勤務先に求める配慮、医師に期待する内容によって提供する情報は異なる。
- ・ 異常があった場合の受診先→かかりつけ医があればそこで相談するのが現実的。成人期に健康管理を行う医療機関を作り、治療などの情報を提供しておくことが重要。
- ・ 治療サマリーについて→作成には時間がかかるため、数ヶ月の猶予をもってお願いする。フォーマットが無くても、正確な診断名・プロトコル名、治療期間、放射線の情報があることが望ましい。
- ・ 転居時の通院→医療の介入の必要性によってケースバイケース。
- ・ 何歳まで小児科にかかっているのか→ケースバイケースだが、AYA 世代には成人診療科への移行も検討する。厚生労働省では移行期医療支援センターを全国に整備する予定。
- ・ 複数の専門外来（脳腫瘍と生殖医療）を一つの病院でカバーすることは可能か→現実的には難しい。
- ・ 治療によるアナフィラキシーの経験がある場合のコロナワクチン接種→アナフィラキシーを起こした成分によって対応は変わる。
- ・ 易疲労への対応→治療可能な原因があれば治療によって改善する。原因不明な場合は個別に対応。9月に改訂版発行予定のフォローアップガイドに14項目の対応が掲載されている。
- ・ ステロイド使用による骨壊死への対応→状況によってリハビリや骨頭温存の為の手術が必要な場合もある。程度と時期によって対応が変わる。主治医によく相談する。

次回のびすけっとは、**11/9(火)11:00~**

**相談室B (2F 総合受付奥)**

※びすけっとの参加のためだけに病院に来られた場合、以下の点にご注意下さい。

- ・ 駐車料金は一般料金になりますので、病院外の駐車場をご利用することをおすすめします。
- ・ 入館時の健康チェックシートは、外来・面会用ではなく、職員専用通路内にある来客・業者用をご使用ください。

びすけっと連絡先：代表 柳戸 民子

〒350-2224 鶴ヶ島市町屋112-5

TEL 049-271-4708 (留守電)

e-mail [yanagido@t.zaq.jp](mailto:yanagido@t.zaq.jp)

※変更の場合があるため、  
来る前にインスタや  
LINEで確認してね。

柳戸LINE、QRコード  
ラインでのご連絡もOK!

